

# 小・中学生にロボット教室



①津田沼2号館で始まったロボット研究教室  
②開始式典であいさつする小宮学長

本学が全面協力して開催されるこの教室は、本学と習志野市との間で3月に締結された包括的連携協定の最初の成果。6月15日に津田沼キャンパス2号館3階の大教室で開かれた教室開始式典には、西村徹副市長、植松榮人習志野市教育長、清水大輔市議会文教福祉常

## 9月まで4回

習志野市立の小学校16校と中学校7校から1人ずつ参加した23人の児童・生徒たちが、本学未来ロボティクス学科の王志東教授と学生の指導でロボットについて学ぶ「ロボット研究教室」が6月15日に始まった。習志野市制施行60周年記念事業の一環。子どもたちは9月6日まで計4回開かれる教室を通して、ロボットのイロハから、実際に自分のロボットを製作するところまでを学ぶ。

「この教室を通して科学技術への関心を高め、将来、習志野から世界中の人たちのために活躍する人が出ることを期待している」、また、斎藤議長は「この教室でロボットに関する多くの知識や技術とともに、礼儀や人との関わり方なども学んでほしい」と、子どもたち

に呼びかけた。これを受けて小宮一仁

水大輔市議会文教福祉常任委員長、参加生徒らとその父母、参加23校の教員らが出席した。

まず、植松教育長が「習志野市は今年、市内にある3大学(本学、東邦大、日大生産工学部)と包括的連携協定を結んだが、その中で初めて千葉工大の協力を得て、この教室を開くことになった。これを契機に、それぞれの大学との連携を生かしながら習志野市の教育が充実することを期待している」とあいさつした。

本学は6月6日、夷隅郡御宿町と包括的連携協定を締結した(6月15日号で一部既報)。「地域社会との共生」を目指して本学が同様の協定を締結した千葉県内の自治体は、習志野市、浦安市と合わせて2市1町となった。

御宿町との協定締結式は同町役場で行われ、瀬戸熊修理理事長と石田義廣町長が協定書を取り交わした。協定書には、両者が連携協力して行う事業

学長が「今日はワールドカップサッカーで日本の初戦が行われるが、ロボットのワールドカップでは本学は3度、世界一に輝いている。今日からの教室を通して、ロボットの素晴らしさを体感するとともに、将来、理系が文系かの選択を迫られたときには、ぜひ理系に進んでください」と語りかけた。

最後に第2中学校2年の小山莉生君が「今、僕らが思い描いている夢を将来、どのくらい実現させることができるか、チャレンジしていきたい」と決意を述べた。

子どもたちはこの日を皮切りに7月26日、8月23日、9月6日の4回の教室で、「プロロボ」の組み立てからプログラミングを経て、自分が作りたいロボットを決め、皆の前でプレゼンテーションするまでを実際にやり遂げる。子どもたちの指導には未来ロボティクス専攻の大学院生と同学部生10人が当たる。

また、在学が個人でライセンスを購入することなく利用できる環境が実現した。教職員は個人所有のPCに1人1台のみ、同様の利用が可能になった。在学生も、タブレットなどへの対応力を高めたクラウドサービス版のOffice 365 ProPlus(常に最新版)を1人5

端末まで利用できるようになる(サービス提供開始は後期を予定。ソフトウェアの配布方法など詳しくはウェブの学内専用ページに順次掲載)。今回の総合契約で▽情報基盤の強化▽学生サービス向上▽VIRT投資コストの削減▽コンプライアンス強化(など)が期待できる。

契約プログラムの詳細は次のとおり。  
Desktop Education  
「Office Professional Plus」  
「Windows Professional Upgrade」  
「Microsoft Core CAL Suite」  
「教育機関向け DreamSpark」  
「学生向け Office 365 ProPlus」

## メキシコとの歴史に触れ

### 御宿町と連携協定締結

これまで、教育研究、生涯学習、文化及びスポーツの振興発展、地域産業振興、まちづくり、人材育成、施設利用などが掲げられている。

2006年、町内岩和田に研修センターが完成して以来、本学は小・中学生のためのロボット講座開催やスカイリータウンキャンパスの見学受け入れなど、個別に同町との協力事業を行ってきた。

これに心えて瀬戸熊理事長は、同町がメキシコと友好関係を結んでいることに関連して、本学惑星探査研究センターの大野宗祐上席研究員が、6550万年前に起きた恐竜などの絶滅の仕組みを世界で初めて解明した研

究も、メキシコに関係があることを紹介。さらに、1887(明治21)年に日本と7(年、金星の太陽面通過を観測するために来日したメキシコの天文学者、ディアス・コバルビアスに触れて、次のようなエピソードを披露した。

「コバルビアスは日本各地を旅行し、帰国後、『日本旅行記』を出版したが、その中で日本人の優れた国民性をたたえている。そのことが1888(明治21)年に日本とメキシコとの間で締結された平等条約に生かされ、メキシコの親日政策の伏線となった。これは当時の明治政府を悩ませていた欧米列強との不平等条約の改正を勢いづかせたことになった」……

## Windows OS、Office 製品 アップグレードが容易に マイクロソフトと総合契約

本学は6月24日、日本マイクロソフト社と、同社が提供する教育機関向けライセンスプログラム「EES」の総合契約(EES)を締結した。これにより、大学が管理する全PCに常に Windows OS のアップグレードや Office 製品の最新版(マック版にも対応)をインストールできるようにになった。

# 千葉工業大学決算(平成25年度)を承認

学校法人千葉工業大学の平成25年度決算が5月28日の理事会・評議員会で承認された。25年度は新学生寮の竣工による教育研究環境の充実、学生への学修支援、経済的支援さらには研究の高度化への支援などを反映した決算となった。25年度事業計画の全文は本学ウェブサイトで公開している。

## 1 教育研究活動

(1) 入学試験関係  
平成26年度入学試験(平成25年度実施)における学部入試の総志願者数は4万3679名(前年度3万5554名、前年度比123%)となった。

(2) 学生生活の満足度向上への対応  
① 学生生活アンケート調査の実施と活用

学生の動向を把握するとともに、学生の満足度向上に向け大学運営に反映させることを目的として実施しており、学生指導や教育計画立案等の実施に活かしている。

② 授業満足度調査の実施と活用  
学生の動向を探るとともに、調査内容を集計・検討し、学生の満足度向上に反映させるよう活用している。FD活動の一環として授業満足度調査の結果をまとめ、教授会において教員に配布した。

③ 自己発見レポートの実施と活用  
「自己発見レポート(アンケート)」を平成25年度も継続して行い、在学中に人間としての成長を図る指針や自己の気づきとして利用している。また、実施3年目でもあることから3年次で実施しているキャリア・アプローチとの統計的データの相違等も調査している。

④ ICTを活用した学生サービス  
学内及び自宅から、Webを利用した履修登録及びシラバスの内容の検索、確認ができる。教員が授業で使用する資料を添付することにより事前事後の学習に役立ち、システム内で小テストの実施さらには教員と学生及び学生同士のコミュニケーションの場として授業運営の一助となった。

⑤ 単位互換制度  
千葉県私立大学・短期大学を中心に県内26大学(放送大学を含む)、11短期大学において単位互換協定を結んでいる。

## 援の推進

厳しい就職状況が続く中、学科及び研究室指導教員が主体となり、学生一人ひとりの対話を積み重ねることを柱にしている。これに加え、就職委員会と就職課が綿密に連携を取り学生の支援を進めた。

(8) キャリア教育(初年次から)の実施  
初年次のキャリア教育を促進させるべく就職委員会と就職課が中心となり、「学習技術」科目の中で講義を展開した。

(9) キャリア形成支援プログラムの強化  
スキルアップを目指した各種プログラムを実施した。秘書技能検定、公務員試験対策講座、知的財産管理技能検定を開設した。特に知的財産管理技能検定については全国大学合格者3年連続第1位となり、全国の大学で初めて表彰を受けた。

(10) 保護者向け就職支援プログラムの実施  
学生とのコミュニケーションを再考してもらうことを目的に「親子の絆セミナー」を宮城県、山形県、群馬県、長野県で開催した。

(11) インターンシップの促進  
学部3年次・大学院1年次後期に向けて、学生が自分の将来を見据えた実務体験ができるインターンシップへの支援を行っている。

(12) 新入生に対する少人数制による総合的な支援  
① オリエンテーションの実施  
② クラス担任制  
③ メンター制度

(13) 習熟度別教育の充実  
入学時に実施するプレスマン

トテストの結果を参考に教養4科目、基礎8科目、その他専門科目において習熟度別クラスを開設し、学生個々のレベルにあわせた授業運営を行っている。

(14) JABEE(日本技術者教育認定機構)認定申請に向けた取り組み  
機械サイエンス学科(機械設計・開発コース)、建築都市環境学科(建築都市エンジニアリングコース)が、4月に認定を受けた。また、電気電子情報工学科(総合システム工学コース)、情報ネットワーク工学科(ネットワークコース)は、認定が継続された。

・全教職員を対象に「JABEE進捗状況報告会」を開催し、各コースの情報や課題及び今後について共有し、報告内容については、学内グループウェアで周知した。

・JABEE等の概要が掲載された「技術士《国家資格》への挑戦!ガイドブック」を作成し、新入生やJABEEコースを希望する学生に配付した。

(15) FDの充実と研究・教育業績の多面的評価の推進  
① FDフォーラムの開催  
② 授業改善への取組み  
③ FD講演会の開催

(16) 学内無線LAN環境の大規模整備を実施  
(17) 基幹ネットワークの全面更改を実施

## 2 研究推進活動

(1) 海外協定大学との連携強化  
① 学生の交流  
交換留学派遣、交換留学(受け入れ)、学生フィールドワーク(派遣)、海外セミナー(受け入れ)を実施した。

② 教職員の交流  
中国・哈爾濱工業大学及び吉林

林大学より客員研究員の受け入れ等を実施した。また、北京理工大学へ職員交流団を派遣した。

③ 新たな交流協定の締結  
国立台北科技大学(台湾)、ベトナム国家大学ハノイ校工科大学(ベトナム)、ハノイ工科大学(ベトナム)、グアム大学(アメリカ)、バンドン工科大学(インドネシア)と新規に海外交流協定を締結した。

(2) 電子ジャーナルの学外からの閲覧  
国立情報学研究所が運用している学術認証フェデレーションに参加したことにより、電子ジャーナルや学術データベースを学外から閲覧することが可能となった。

(3) 競争的研究資金等の獲得支援  
平成25年度科学研究費助成事業の申請件数は101件で、このうち継続分も含め70件が採択された。

研究費を獲得できる本学の核となる研究プロジェクトを育てるため、戦略的研究推進準備プロジェクトを新設した。また、科研費申請者採択前支援助成金を申請の準備支援を目的とする科研費申請準備支援助成金に改めた。

・研究活動報告会を6月13日に開催した。

・材料解析室の各種機器利用時間は延べ3492時間で利用者は563名。大学院生を対象とした解析機器基礎講習会を延べ26日間開催し、135名の学生が参加した。工作センターでの今年度の受託総件数は369件で、加工数は1万9900個。

(7) 未来ロボット技術研究センター  
① 公的機関からの受託研究費  
「平成25年度発電用原子炉等廃炉・安全技術基盤整備事業」、「生活支援ロボット実用化プロジェクト」、「NEDOプロジェクトを核とした人材育成、産学連携等の総合的展開」、「豚肉除骨装置向け肋骨断面認識の研究」、「基礎研究B」。

② その他  
東京電力に無償貸与したタイ

平成25年度中に受け入れた奨学金及び受託研究は135件で、前年度比18件の増、金額は前年度比約1億6千万円の減となった。

(5) 公的研究費等の管理  
平成18年度から平成23年度までの公的研究費等に係る全件を調査、合わせて私立大学経常費補助金にかかる経費の使用状況について調査を行い、不適正使用の全容解明に努め、文部科学省等への報告・了承を踏まえ調査結果をホームページなどにより公開した。また、公的研究費不正防止計画を策定し、全学を挙げて再発防止策の推進に取り組んだ。

(6) 研究助成関係  
① 特許  
平成25年度は18件を出願した。

② 附属総合研究所  
・研究助成金の交付  
平成25年度から、学外の大

研究費を獲得できる本学の核となる研究プロジェクトを育てるため、戦略的研究推進準備プロジェクトを新設した。また、科研費申請者採択前支援助成金を申請の準備支援を目的とする科研費申請準備支援助成金に改めた。

・研究活動報告会を6月13日に開催した。

・材料解析室の各種機器利用時間は延べ3492時間で利用者は563名。大学院生を対象とした解析機器基礎講習会を延べ26日間開催し、135名の学生が参加した。工作センターでの今年度の受託総件数は369件で、加工数は1万9900個。

(7) 未来ロボット技術研究センター  
① 公的機関からの受託研究費  
「平成25年度発電用原子炉等廃炉・安全技術基盤整備事業」、「生活支援ロボット実用化プロジェクト」、「NEDOプロジェクトを核とした人材育成、産学連携等の総合的展開」、「豚肉除骨装置向け肋骨断面認識の研究」、「基礎研究B」。

星観測超小型衛星、宇宙ステーションからの流星観測を進めている。

平成25年度中に受けた科学研究費補助金・競争的研究資金は13件で、合計1460万円となった。

(9) その他の活動  
・ロボカップ・ジャパン2013で5連覇達成。  
・第17回ロボカップ世界大会で準優勝。  
・谷津船舶インターチェンジ(IC) 開通ポスターをデザイン。

・「第18回エコマッセ2013 in ちば」に出展。  
・ブータン政府の要請に基づく調査。  
・イノベーション・ジャパン2013に出展

3 学生支援関係  
(1) 学生支援の充実強化(学生相談、課外活動、奨学金等)  
① 学生相談  
悩みを訴える学生に対応するためカウンセリングルームを開設した。

② 課外活動支援の充実  
毎年、支援するクラブを選出し、運動用具や備品を提供している。平成25年度は11クラブに対して支援した。さらに、全国大会出場や諸大会において優勝したクラブ等を表彰、平成25年度は18クラブを表彰した。

③ 奨学金支援活動  
千葉工業大学同窓会からの寄付を原資とした給付型の奨学金を創設し、人物・学業ともに優良な学生の中で経済的に困窮度が高い学部4年生を対象として募集、5名の学生に学生納付金半期相当額を上限として給付を行った。また、大学院の授業料を貸与する大学院奨学金制度では、合計80名の大学院生に貸与を行った。

東日本大震災及び長野県北部の地震の被災者に対しては、災害救助法適用地域世帯で半壊以上の被害に遭われた学生を対象とし、63名の学生に学生納付金の年額または半期相当額の減免を行った。

④ SA(学生サポーター)制度  
新習志野校舎の学習支援センターにおいて、現在21名のメンバーで活動している。

(2) 学生共済会の充実  
① 見舞金給付  
学生の疾病・傷病・死亡・災害被災などに対して、見舞金や弔慰金を給付している。平成25年度は53件の見舞金及び2件の弔慰金として、合計166万円を給付した。

② 学生納付金貸与制度  
14名の学生に対して、合計1027万円を貸与し、修学を継続させることができた。

③ メンタルヘルスサポートシステム及びドクターオブクローズドネットワークシステム支援  
「ここからだの元気サポート(メンタル及び健康相談)」は97件の利用があった。電話によるカウンセリングは61件の利用があった。

④ 暮らしの法律相談サービス  
消費者問題やアルバイト先の雇用条件に関する相談2件に対応した。さらに周知強化に努める。

⑤ 学生補償サポート制度  
全学生に対し個人賠償責任保険に加入、7件の事故に対応した。

上の被害に遭われた学生を対象とし、63名の学生に学生納付金の年額または半期相当額の減免を行った。

④ SA(学生サポーター)制度  
新習志野校舎の学習支援センターにおいて、現在21名のメンバーで活動している。

(2) 学生共済会の充実  
① 見舞金給付  
学生の疾病・傷病・死亡・災害被災などに対して、見舞金や弔慰金を給付している。平成25年度は53件の見舞金及び2件の弔慰金として、合計166万円を給付した。

② 学生納付金貸与制度  
14名の学生に対して、合計1027万円を貸与し、修学を継続させることができた。

③ メンタルヘルスサポートシステム及びドクターオブクローズドネットワークシステム支援  
「ここからだの元気サポート(メンタル及び健康相談)」は97件の利用があった。電話によるカウンセリングは61件の利用があった。

④ 暮らしの法律相談サービス  
消費者問題やアルバイト先の雇用条件に関する相談2件に対応した。さらに周知強化に努める。

⑤ 学生補償サポート制度  
全学生に対し個人賠償責任保険に加入、7件の事故に対応した。

(3) 留学生の受け入れ体制の充実  
留学生に対して授業料の減免や学生生活・在留手続・就職等に関するガイダンスを実施した。

(4) 自ら学ぶ環境の充実  
新習志野校舎図書館内に学習スペースを増設し、124席ある座席に、さまざまな学習形態に対応できる稼働式の机、椅子及びホワイトボードを用意することにより、グループ学習やプレゼンテーションの準備等に使用できるようにした。

消費収支計算書

平成25年4月1日から平成26年3月31日まで

(単位：円)

| 消費収入の部   |                |                |              |
|----------|----------------|----------------|--------------|
| 科 目      | 予 算            | 決 算            | 差 異          |
| 学生生徒等納付金 | 13,300,000,000 | 13,312,974,500 | △12,974,500  |
| 手数料      | 274,000,000    | 277,494,896    | △3,494,896   |
| 寄付金      | 120,000,000    | 127,525,783    | △7,525,783   |
| 補助金      | 1,416,000,000  | 1,579,151,226  | △163,151,226 |
| 資産運用収入   | 500,000,000    | 521,337,217    | △21,337,217  |
| 事業収入     | 344,000,000    | 291,934,241    | 52,065,759   |
| 雑収入      | 270,000,000    | 270,016,428    | △16,428      |
| 帰属収入合計   | 16,224,000,000 | 16,380,434,291 | △156,434,291 |
| 基本金組入額合計 | △3,302,000,000 | △3,191,768,544 | △110,231,456 |
| 消費収入の部合計 | 12,922,000,000 | 13,188,665,747 | △266,665,747 |

| 消費支出の部    |                |                |             |
|-----------|----------------|----------------|-------------|
| 科 目       | 予 算            | 決 算            | 差 異         |
| 人件費       | 6,433,100,000  | 6,469,999,071  | △36,899,071 |
| 教育研究費     | 6,928,700,000  | 6,575,551,447  | 353,148,553 |
| (内 減価償却費) | 2,725,600,000  | 2,725,592,449  | 7,551       |
| 管理経費      | 1,533,400,000  | 1,457,260,092  | 76,139,908  |
| (内 減価償却費) | 156,200,000    | 156,168,517    | 31,483      |
| 資産処分差額他   | 91,200,000     | 110,643,775    | △19,443,775 |
| 消費支出の部合計  | 14,986,400,000 | 14,613,454,385 | 372,945,615 |

|              |               |               |  |
|--------------|---------------|---------------|--|
| 当年度消費支出超過額   | 2,064,400,000 | 1,424,788,638 |  |
| 前年度繰越消費支出超過額 | 2,545,600,000 | 2,545,552,165 |  |
| 翌年度繰越消費支出超過額 | 4,610,000,000 | 3,970,340,803 |  |

貸借対照表

平成26年 3月31日

(単位：円)

| 資産の部                   |                 |                 |                |
|------------------------|-----------------|-----------------|----------------|
| 科 目                    | 本年度末            | 前年度末            | 増 減            |
| 固定資産                   | 105,209,609,330 | 102,915,551,729 | 2,294,057,601  |
| 有形固定資産                 | 65,834,133,292  | 62,900,554,083  | 2,933,579,209  |
| 土地                     | 9,343,367,496   | 9,343,367,496   | 0              |
| 建物                     | 47,391,842,038  | 43,687,990,090  | 3,703,851,948  |
| 構築物                    | 3,201,454,880   | 2,747,856,209   | 453,598,671    |
| 教育研究用機器備品              | 3,192,161,460   | 2,906,575,755   | 285,585,705    |
| 図書                     | 1,824,969,643   | 1,855,010,409   | △30,040,766    |
| 建設仮勘定                  | 0               | 2,074,044,000   | △2,074,044,000 |
| その他の機器備品他              | 880,337,775     | 285,710,124     | 594,627,651    |
| その他の固定資産               | 39,375,476,038  | 40,014,997,646  | △639,521,608   |
| 出資金                    | 60,300,000      | 61,300,000      | △1,000,000     |
| 長期貸付金                  | 393,061,178     | 436,318,366     | △43,257,188    |
| 教育環境整備資金特定資産           | 4,000,000,000   | 5,500,000,000   | △1,500,000,000 |
| 校舎改修準備資金特定預金           | 1,764,865,100   | 1,000,000,000   | 764,865,100    |
| 退職資金特定資産               | 2,000,000,000   | 2,000,000,000   | 0              |
| 減価償却引当特定資産             | 18,000,000,000  | 18,000,000,000  | 0              |
| 産学連携共同研究基金特定資産         | 3,000,000,000   | 3,000,000,000   | 0              |
| 第3号基本金引当資産             | 10,000,000,000  | 10,000,000,000  | 0              |
| 差入保証金・敷金他              | 157,249,760     | 17,379,280      | 139,870,480    |
| 流動資産                   | 7,376,046,947   | 7,687,069,171   | △311,022,224   |
| 現金預金                   | 6,736,795,915   | 7,216,975,755   | △480,179,840   |
| 未収入金他                  | 639,251,032     | 470,093,416     | 169,157,616    |
| 資産の部合計                 | 112,585,656,277 | 110,602,620,900 | 1,983,035,377  |
| 負債の部                   |                 |                 |                |
| 科 目                    | 本年度末            | 前年度末            | 増 減            |
| 固定負債                   | 3,094,546,794   | 3,020,716,847   | 73,829,947     |
| 退職給与引当金                | 3,094,546,794   | 3,020,716,847   | 73,829,947     |
| 流動負債                   | 6,463,055,156   | 6,320,829,632   | 142,225,524    |
| 預り金                    | 279,032,538     | 300,646,856     | △21,614,318    |
| 前受金                    | 5,648,280,942   | 5,459,255,396   | 189,025,546    |
| 未払金                    | 535,741,676     | 560,927,380     | △25,185,704    |
| 負債の部合計                 | 9,557,601,950   | 9,341,546,479   | 216,055,471    |
| 基本金の部                  |                 |                 |                |
| 科 目                    | 本年度末            | 前年度末            | 増 減            |
| 第1号基本金                 | 90,224,530,030  | 86,359,626,586  | 3,864,903,444  |
| 第2号基本金                 | 5,764,865,100   | 6,500,000,000   | △735,134,900   |
| 第3号基本金                 | 10,000,000,000  | 10,000,000,000  | 0              |
| 第4号基本金                 | 1,009,000,000   | 947,000,000     | 62,000,000     |
| 基本金の部合計                | 106,998,395,130 | 103,806,626,586 | 3,191,768,544  |
| 消費収支差額の部               |                 |                 |                |
| 科 目                    | 本年度末            | 前年度末            | 増 減            |
| 翌年度繰越消費支出超過額           | 3,970,340,803   | 2,545,552,165   | 1,424,788,638  |
| 消費収支差額の部合計             | △3,970,340,803  | △2,545,552,165  | △1,424,788,638 |
| 科 目                    | 本年度末            | 前年度末            | 増 減            |
| 負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計 | 112,585,656,277 | 110,602,620,900 | 1,983,035,377  |

4 施設設備整備関係

(1) 津田沼キャンパス

文部科学省からエコキャンパスの補助金交付を受けながら、6号館の屋上に本学初となる風力発電システム(最大6キロワット)を導入した。

(2) 新習志野キャンパス

新たな学生寮が竣工した。住居であると同時に学問と社会の接点を習得する教育寮を目指している。

(3) その他

全ての講義室内AV機器を対象としてリプレース工事を行うなど、学生の満足度向上・教育環境整備の充実に繋がる計画を遂行した。また、茜浜運動施設では、部室棟や武道館のトイレ修繕や、正門付近の砂利敷き路面をアスファルトに舗装し直すなど、課外活動の為の環境整備にも努めた。

5 地域・社会への貢献

(1) 大学の特色を活かした公開講座の推進

(2) 産官学連携協議会関係

平成25年6月13日の総会をもって「技術情報振興会」を発展

的に解散し、「千葉工業大学産官学連携協議会」として再スタートした。平成25年12月末日現在で会員会員数は正会員42社、特別会員10団体、計52会員。事業内容は次のとおり。

- 工場見学・企業訪問
- 産官学連携フォーラム他

(3) 東京スカイツリータウンキャンパスにAreaⅡ(アストロバイオロジーエリア)をオープン

(4) 地域社会に大学の知を還元するための図書館開放

(5) 全国小中高生に対するエシニア育成活動の実施

6 法人管理・運営関係

(1) 災害発生時における帰宅困難者の受入等に関する協力協定の締結

(2) 自己点検評価活動

(3) 公的研究費等の監査の実施

(4) 自己管理型チェックリストシステムの導入・実施

(5) SD活動の充実

7 財務の概要

(1) 帰属収入1億63億8000万円(予算比1億56000万円増)

(2) 消費支出146億1400万円(予算比3億7300万円増)

(3) 公的研究費等の監査の実施

(4) 自己管理型チェックリストシステムの導入・実施

(5) SD活動の充実

消費支出は、予算比3億7300万円減少し、146億1300万円となった。

①人件費は退職給与引当金繰入額が発生し、予算比3700万円増加し64億7000万円となった。

②消費支出146億1400万円(予算比3億7300万円増)

前年度比では5億4000万円の減少となっている。

主な要因は、前年度発生した有価証券売却差額の3億3000万円と退職給与引当金戻入の2億2000万円が今年度なくなったこと。

(2) 消費支出146億1400万円(予算比3億7300万円増)

前年度比7億8800万円減

消費支出は、予算比3億7300万円減少し、146億1300万円となった。

①人件費は退職給与引当金繰入額が発生し、予算比3700万円増加し64億7000万円となった。

②消費支出146億1400万円(予算比3億7300万円増)

前年度比では5億4000万円の減少となっている。

主な要因は、前年度発生した有価証券売却差額の3億3000万円と退職給与引当金戻入の2億2000万円が今年度なくなったこと。

(2) 消費支出146億1400万円(予算比3億7300万円増)

前年度比7億8800万円減

消費支出は、予算比3億7300万円減少し、146億1300万円となった。

①人件費は退職給与引当金繰入額が発生し、予算比3700万円増加し64億7000万円となった。

②消費支出146億1400万円(予算比3億7300万円増)

前年度比では5億4000万円の減少となっている。

主な要因は、前年度発生した有価証券売却差額の3億3000万円と退職給与引当金戻入の2億2000万円が今年度なくなったこと。

(2) 消費支出146億1400万円(予算比3億7300万円増)

前年度比7億8800万円減

消費支出は、予算比3億7300万円減少し、146億1300万円となった。

①人件費は退職給与引当金繰入額が発生し、予算比3700万円増加し64億7000万円となった。

②消費支出146億1400万円(予算比3億7300万円増)

前年度比では5億4000万円の減少となっている。

主な要因は、前年度発生した有価証券売却差額の3億3000万円と退職給与引当金戻入の2億2000万円が今年度なくなったこと。

(2) 消費支出146億1400万円(予算比3億7300万円増)

前年度比7億8800万円減

消費支出は、予算比3億7300万円減少し、146億1300万円となった。

①人件費は退職給与引当金繰入額が発生し、予算比3700万円増加し64億7000万円となった。

②消費支出146億1400万円(予算比3億7300万円増)

前年度比では5億4000万円の減少となっている。

主な要因は、前年度発生した有価証券売却差額の3億3000万円と退職給与引当金戻入の2億2000万円が今年度なくなったこと。

(2) 消費支出146億1400万円(予算比3億7300万円増)

前年度比7億8800万円減

消費支出は、予算比3億7300万円減少し、146億1300万円となった。

①人件費は退職給与引当金繰入額が発生し、予算比3700万円増加し64億7000万円となった。

②消費支出146億1400万円(予算比3億7300万円増)

前年度比では5億4000万円の減少となっている。

主な要因は、前年度発生した有価証券売却差額の3億3000万円と退職給与引当金戻入の2億2000万円が今年度なくなったこと。

(2) 消費支出146億1400万円(予算比3億7300万円増)

前年度比7億8800万円減

消費支出は、予算比3億7300万円減少し、146億1300万円となった。

①人件費は退職給与引当金繰入額が発生し、予算比3700万円増加し64億7000万円となった。

②消費支出146億1400万円(予算比3億7300万円増)

前年度比では5億4000万円の減少となっている。

主な要因は、前年度発生した有価証券売却差額の3億3000万円と退職給与引当金戻入の2億2000万円が今年度なくなったこと。

(2) 消費支出146億1400万円(予算比3億7300万円増)

前年度比7億8800万円減

消費支出は、予算比3億7300万円減少し、146億1300万円となった。

①人件費は退職給与引当金繰入額が発生し、予算比3700万円増加し64億7000万円となった。

②消費支出146億1400万円(予算比3億7300万円増)

前年度比では5億4000万円の減少となっている。

主な要因は、前年度発生した有価証券売却差額の3億3000万円と退職給与引当金戻入の2億2000万円が今年度なくなったこと。

(2) 消費支出146億1400万円(予算比3億7300万円増)

前年度比7億8800万円減

消費支出は、予算比3億7300万円減少し、146億1300万円となった。

①人件費は退職給与引当金繰入額が発生し、予算比3700万円増加し64億7000万円となった。

②消費支出146億1400万円(予算比3億7300万円増)

前年度比では5億4000万円の減少となっている。

主な要因は、前年度発生した有価証券売却差額の3億3000万円と退職給与引当金戻入の2億2000万円が今年度なくなったこと。

(2) 消費支出146億1400万円(予算比3億7300万円増)

前年度比7億8800万円減

消費支出は、予算比3億7300万円減少し、146億1300万円となった。

①人件費は退職給与引当金繰入額が発生し、予算比3700万円増加し64億7000万円となった。

②消費支出146億1400万円(予算比3億7300万円増)

前年度比では5億4000万円の減少となっている。

主な要因は、前年度発生した有価証券売却差額の3億3000万円と退職給与引当金戻入の2億2000万円が今年度なくなったこと。

(2) 消費支出146億1400万円(予算比3億7300万円増)

前年度比7億8800万円減

消費支出は、予算比3億7300万円減少し、146億1300万円となった。

①人件費は退職給与引当金繰入額が発生し、予算比3700万円増加し64億7000万円となった。

②消費支出146億1400万円(予算比3億7300万円増)

前年度比では5億4000万円の減少となっている。

主な要因は、前年度発生した有価証券売却差額の3億3000万円と退職給与引当金戻入の2億2000万円が今年度なくなったこと。

(2) 消費支出146億1400万円(予算比3億7300万円増)

前年度比7億8800万円減

消費支出は、予算比3億7300万円減少し、146億1300万円となった。

①人件費は退職給与引当金繰入額が発生し、予算比3700万円増加し64億7000万円となった。

②消費支出146億1400万円(予算比3億7300万円増)

前年度比では5億4000万円の減少となっている。

主な要因は、前年度発生した有価証券売却差額の3億3000万円と退職給与引当金戻入の2億2000万円が今年度なくなったこと。

(2) 消費支出146億1400万円(予算比3億7300万円増)

前年度比7億8800万円減

消費支出は、予算比3億7300万円減少し、146億1300万円となった。

①人件費は退職給与引当金繰入額が発生し、予算比3700万円増加し64億7000万円となった。

②消費支出146億1400万円(予算比3億7300万円増)

前年度比では5億4000万円の減少となっている。

主な要因は、前年度発生した有価証券売却差額の3億3000万円と退職給与引当金戻入の2億2000万円が今年度なくなったこと。

(2) 消費支出146億1400万円(予算比3億7300万円増)

前年度比7億8800万円減

消費支出は、予算比3億7300万円減少し、146億1300万円となった。

①人件費は退職給与引当金繰入額が発生し、予算比3700万円増加し64億7000万円となった。

②消費支出146億1400万円(予算比3億7300万円増)

前年度比では5億4000万円の減少となっている。

主な要因は、前年度発生した有価証券売却差額の3億3000万円と退職給与引当金戻入の2億2000万円が今年度なくなったこと。

(2) 消費支出146億1400万円(予算比3億7300万円増)

前年度比7億8800万円減

消費支出は、予算比3億7300万円減少し、146億1300万円となった。

①人件費は退職給与引当金繰入額が発生し、予算比3700万円増加し64億7000万円となった。

②消費支出146億1400万円(予算比3億7300万円増)

前年度比では5億4000万円の減少となっている。

主な要因は、前年度発生した有価証券売却差額の3億3000万円と退職給与引当金戻入の2億2000万円が今年度なくなったこと。

(2) 消費支出146億1400万円(予算比3億7300万円増)

前年度比7億8800万円減

消費支出は、予算比3億7300万円減少し、146億1300万円となった。

①人件費は退職給与引当金繰入額が発生し、予算比3700万円増加し64億7000万円となった。

②消費支出146億1400万円(予算比3億7300万円増)

前年度比では5億4000万円の減少となっている。

主な要因は、前年度発生した有価証券売却差額の3億3000万円と退職給与引当金戻入の2億2000万円が今年度なくなったこと。

(2) 消費支出146億1400万円(予算比3億7300万円増)

前年度比7億8800万円減

消費支出は、予算比3億7300万円減少し、146億1300万円となった。

①人件費は退職給与引当金繰入額が発生し、予算比3700万円増加し64億7000万円となった。

②消費支出146億1400万円(予算比3億7300万円増)

前年度比では5億4000万円の減少となっている。

主な要因は、前年度発生した有価証券売却差額の3億3000万円と退職給与引当金戻入の2億2000万円が今年度なくなったこと。

(2) 消費支出146億1400万円(予算比3億7300万円増)

前年度比7億8800万円減

消費支出は、予算比3億7300万円減少し、146億1300万円となった。

①人件費は退職給与引当金繰入額が発生し、予算比3700万円増加し64億7000万円となった。

②消費支出146億1400万円(予算比3億7300万円増)

前年度比では5億4000万円の減少となっている。

主な要因は、前年度発生した有価証券売却差額の3億3000万円と退職給与引当金戻入の2億2000万円が今年度なくなったこと。

(2) 消費支出146億1400万円(予算比3億7300万円増)

前年度比7億8800万円減

消費支出は、予算比3億7300万円減少し、146億1300万円となった。

①人件費は退職給与引当金繰入額が発生し、予算比3700万円増加し64億7000万円となった。

②消費支出146億1400万円(予算比3億7300万円増)

前年度比では5億4000万円の減少となっている。

主な要因は、前年度発生した有価証券売却差額の3億3000万円と退職給与引当金戻入の2億2000万円が今年度なくなったこと。

(2) 消費支出146億1400万円(予算比3億7300万円増)

前年度比7億8800万円減

消費支出は、予算比3億7300万円減少し、146億1300万円となった。

①人件費は退職給与引当金繰入額が発生し、予算比3700万円増加し64億7000万円となった。

②消費支出146億1400万円(予算比3億7300万円増)

前年度比では5億4000万円の減少となっている。

主な要因は、前年度発生した有価証券売却差額の3億3000万円と退職給与引当金戻入の2億2000万円が今年度なくなったこと。

(2) 消費支出146億1400万円(予算比3億7300万円増)

前年度比7億8800万円減

消費支出は、予算比3億7300万円減少し、146億1300万円となった。

①人件費は退職給与引当金繰入額が発生し、予算比3700万円増加し64億7000万円となった。

②消費支出146億1400万円(予算比3億7300万円増)

前年度比では5億4000万円の減少となっている。

主な要因は、前年度発生した有価証券売却差額の3億3000万円と退職給与引当金戻入の2億2000万円が今年度なくなったこと。

(2) 消費支出146億1400万円(予算比3億7300万円増)

前年度比7億8800万円減

消費支出は、予算比3億7300万円減少し、146億1300万円となった。

①人件費は退職給与引当金繰入額が発生し、予算比3700万円増加し64億7000万円となった。

②消費支出146億1400万円(予算比3億7300万円増)

前年度比では5億4000万円の減少となっている。

主な要因は、前年度発生した有価証券売却差額の3億3000万円と退職給与引当金戻入の2億2000万円が今年度なくなったこと。

(2) 消費支出146億1400万円(予算比3億7300万円増)

前年度比7億8800万円減

消費支出は、予算比3億7300万円減少し、146億1300万円となった。

①人件費は退職給与引当金繰入額が発生し、予算比3700万円増加し64億7000万円となった。

②消費支出146億1400万円(予算比3億7300万円増)

前年度比では5億4000万円の減少となっている。

主な要因は、前年度発生した有価証券売却差額の3億3000万円と退職給与引当金戻入の2億2000万円が今年度なくなったこと。

(2) 消費支出146億1400万円(予算比3億7300万円増)

前年度比7億8800万円減

消費支出は、予算比3億7300万円減少し、146億1300万円となった。

①人件費は退職給与引当金繰入額が発生し、予算比3700万円増加し64億7000万円となった。

②消費支出146億1400万円(予算比3億7300万円増)

前年度比では5億4000万円の減少となっている。

主な要因は、前年度発生した有価証券売却差額の3億3000万円と退職給与引当金戻入の2億2000万円が今年度なくなったこと。

(2) 消費支出146億1400万円(予算比3億7300万円増)

前年度比7億8800万円減

消費支出は、予算比3億7300万円減少し、146億1300万円となった。

①人件費は退職給与引当金繰入額が発生し、予算比3700万円増加し64億7000万円となった。

②消費支出146億1400万円(予算比3億7300万円増)

前年度比では5億4000万円の減少となっている。

主な要因は、前年度発生した有価証券売却差額の3億3000万円と退職給与引当金戻入の2億2000万円が今年度なくなったこと。

(2) 消費支出146億1400万円(予算比3億7300万円増)

前年度比7億8800万円減

消費支出は、予算比3億7300万円減少し、146億1300万円となった。

①人件費は退職給与引当金繰入額が発生し、予算比3700万円増加し64億7000万円となった。

②消費支出146億1400万円(予算比3億7300万円増)

前年度比では5億4000万円の減少となっている。

主な要因は、前年度発生した有価証券売却差額の3億3000万円と退職給与引当金戻入の2億2000万円が今年度なくなったこと。

(2) 消費支出146億1400万円(予算比3億7300万円増)

前年度比7億8800万円減

消費支出は、予算比3億7300万円減少し、146億1300万円となった。

①人件費は退職給与引当金繰入額が発生し、予算比3700万円増加し64億7000万円となった。

②消費支出146億1400万円(予算比3億7300万円増)

前年度比では5億4000万円の減少となっている。

主な要因は、前年度発生した有価証券売却差額の3億3000万円と退職給与引当金戻入の2億2000万円が今年度なくなったこと。

(2) 消費支出146億1400万円(予算比3億7300万円増)

前年度比7億8800万円減

消費支出は、予算比3億7300万円減少し、146億1300万円となった。

①人件費は退職給与引当金繰入額が発生し、予算比3700万円増加し64億7000万円となった。

②消費支出146億1400万円(予算比3億7300万円増)

前年度比では5億4000万円の減少となっている。

主な要因は、前年度発生した有価証券売却差額の3億3000万円と退職給与引当金戻入の2億2000万円が今年度なくなったこと。

(2) 消費支出146億1400万円(予算比3億7300万円増)

前年度比7億8800万円減

消費支出は、予算比3億7300万円減少し、146億1300万円となった。

①人件費は退職給与引当金繰入額が発生し、予算比3700万円増加し64億7000万円となった。

②消費支出146億1400万円(予算比3億7300万円増)

前年度比では5億4000万円の減少となっている。

主な要因は、前年度発生した有価証券売却差額の3億3000万円と退職給与引当金戻入の2億2000万円が今年度なくなったこと。

(2) 消費支出146億1400万円(予算比3億7300万円増)

前年度比7億8800万円減

消費支出は、予算比3億7300万円減少し、146億1300万円となった。

①人件費は退職給与引当金繰入額が発生し、予算比3700万円増加し64億7000万円となった。

②消費支出146億1400万円(予算比3億7300万円増)

前年度比では5億4000万円の減少となっている。

主な要因は、前年度発生した有価証券売却差額の3億3000万円と退職給与引当金戻入の2億2000万円が今年度なくなったこと。

(2) 消費支出146億1400万円(予算比3億7300万円増)

前年度比7億8800万円減

消費支出は、予算比3億7300万円減少し、146億1300万円となった。

①人件費は退職給与引当金繰入額が発生し、予算比3700万円増加し64億7000万円となった。

②消費支出146億1400万円(予算比3億7300万円増)

前年度比では5億4000万円の減少となっている。

主な要因は、前年度発生した有価証券売却差額の3億3000万円と退職給与引当金戻入の2億2000万円が今年度なくなったこと。

(2) 消費支出146億1400万円(予算比3億7300万円増)

前年度比7億8800万円減

消費支出は、予算比3億7300万円減少し、146億1300万円となった。

①人件費は退職給与引当金繰入額が発生し、予算比3700万円増加し64億7000万円となった。

②消費支出146億1400万円(予算比3億7300万円増)

前年度比では5億4000万円の減少となっている。

主な要因は、前年度発生した有価証券売却差額の3億3000万円と退職給与引当金戻入の2億2000万円が今年度なくなったこと。

(2) 消費支出146億1400万円(予算比3億7300万円増)

前年度比7億8800万円減

消費支出は、予算比3億7300万円減少し、146億1300万円となった。

①人件費は退職給与引当金繰入額が発生し、予算比3700万円増加し64億7000万円となった。

②消費支出146億1400万円(予算比3億7300万円増)

前年度比では5億4000万円の減少となっている。

主な要因は、前年度発生した有価証券売却差額の3億3000万円と退職給与引当金戻入の2億2000万円が今年度なくなったこと。

(2) 消費支出146億1400万円(予算比3億7300万円増)

前年度比7億8800万円減

消費支出は、予算比3億7300万円減少し、146億1300万円となった。

①人件費は退職給与引当金繰入額が発生し、予算比3700万円増加し64億7000万円となった。

②消費支出146億1400万円(予算比3億7300万円増)

前年度比では5億4000万円の減少となっている。

主な要因は、前年度発生した有価証券売却差額の3億3000万円と退職給与引当金戻入の2億2000万円が今年度なくなったこと

# 計148校の高校教諭参加

## 27年度入試説明会 2回開く

本学の27年度入試説明会が5月30日、初めて東京スカイツリータウンキャンパスで開かれ、関東

地方を中心に71校72人の高校教諭が参加した。

冒頭、日下部聡入試広報部長が「このキャンパ

スはお年寄りからお子さんまで幅広い皆さんに、最先端の科学技術に親しんでもらおうと2年前に開設しましたが、お陰さまで入場者は32万人に達しました」とあいさつ。

続いて小宮一仁学長が「私はいま52歳。全国の大学学長の中で11番目の若さで、オバマ大統領と同じ年なのです」と自己紹介した後、本学72年の歴史や学部・学科構成、施設、教職員など教育体制の現況を説明。

この中で学長としての大学へのビジョンとして、「多様性、多様性を大切に、工学系を中心に、デザイン、情報、マ

ネジメントなども伸ばしていきたい」と、社会科学系の分野にも注力する考えを表明し、さらに次のように語った。

「ご批判が強かった退学率・留年率も、この2年間で相当改善した。これから4年間できちんと卒業できる学生の数を増やしていく」「卒業生の就職は理系好調の波に乗って、昨年度の卒業生の進路決定率は95%まで回復した」「学部志願者は6年連続で増加し、昨年度は初めて4万人を突破。志願者の増加数では全国一位に輝いた」

そして「師弟同行・師弟共生の教育目標の下、

熊本忠彦教授（情報科学部情報ネットワーク学科）が、27年度入試について説明。AO入試、推薦入試、前年度入試との相違点や一般入試、センター利用入試のほか、試験日自由選択方式、併願受験料優遇制、参加高校の卒業生の成績や進路状況などについても、入試広報課の出口武志課長とともに丁寧に説明した。

説明会の前後の時間を活用し、希望者は「エリアロボット技術ゾーン」「エリアII惑星探索ゾーン」「CITシアター」を見学。福島第一原発で活躍している「クイーンズ」や「太陽系グラブドゥアー」などに興味深



スカイツリータウンキャンパスで開かれた入試説明会

## 江尻研マシン 3位

### WEM 燃料電池部門に出場

電気自動車の省エネ性能を競う「ワールド・エコ・ムーブ（WEM）2014」第20回記念大会は5月4、5日、秋

田県大瀬村ソーラーポーツラインの6キロ往復コースで開かれた。全国の大学・高専などから63チームが参加。本学機械サイエンス学科・江尻英治研究室チーム（磯野大樹さん）機械サイエンス専

攻修11年（15人）のマシン「Violet Beam03」が燃料電池部門オープンクラスに出場し、3位に入賞した。

江尻研究室は2010年から参加し今年で5回目。このレースでは一定量のバッテリーや水素を与えられ、2時間内にどれだけ距離を走れたかを競う。江尻研究室はイオンホイールモーター、ウ

ルトラキャパシタ、ボデーにCFRP（炭素繊維強化樹脂）を使ったハイテクマシンを短期間で製作した。



Violet Beam03号と江尻研チーム

入賞を果たした。総監督を務めた磯野さん、燃料電池が空冷タイ

んは「例年より気温が高

く、燃料電池が空冷タイ

く、燃料電池が空冷タイ

キメ細かい、温かい教育で、建学の精神の『世界文化に技術で貢献する』人材を育てていく」と結んだ。

この後、入試委員長の熊本忠彦教授（情報科学部情報ネットワーク学科）が、27年度入試について説明。AO入試、推薦入試、前年度入試との相違点や一般入試、センター利用入試のほか、試験日自由選択方式、併願受験料優遇制、参加高校の卒業生の成績や進路状況などについても、入試広報課の出口武志課長とともに丁寧に説明した。

説明会の前後の時間を活用し、希望者は「エリアロボット技術ゾーン」「エリアII惑星探索ゾーン」「CITシアター」を見学。福島第一原発で活躍している「クイーンズ」や「太陽系グラブドゥアー」などに興味深

## 宮田准教授に論文賞

### 画像復元の手法を提案



宮田准教授

画像処理を研究する電気電子情報工学科の宮田高道准教授が、2012年暮れに電子情報通信学会の論文誌に発表した「Image Recovery by Decomposition with Component - wise Regularization（成分分離と成分ごとの正則化による画像復元）」が、

年度論文賞に選ばれ、6月5日、東京・芝公園の機械振興会館で表彰された。

## 住まいのリノベーション図鑑

### 田島助教らに著作賞

都市住宅学会



田島助教らはH.E.A.D.研究会リノベ図鑑製作委員会を編成して執筆。他の執筆者は馬場正尊（東北芸術工科大学教授、新堀アトリエ一級建築士事務所の新堀孝氏、ブルースタジオの大島芳彦氏、佐々木設計事務所の佐々木龍郎氏、らいおん建築事務所の嶋田洋平氏。

田島助教は「光栄な賞をいただき、うれしく思います。少子高齢化が進む日本では、不動産ストックの再生が大きな力になります。リノベーションを通して都市再生の可能性を今後も進めて行きたい」とコメントしている。

アなので、オーバーヒートを心配した。これまで途中で走行不能になるなど結果が振るわなかったが、今年のはじめて2時間連続走行ができ、うれしい。性能を向上させて、来年はぜひ優勝したい。

江尻教授は「レースは思ったように行かないもの。周到な準備ももちろんですが、想定外の事態に迅速的確に対応できるかどうか勝負を決めます。自分たち手作りの『走る実験室』に関わることで、学生には技術力と人間力を身につけてほしい」と語った。

建築都市環境学科の田島則行助教の「写真Ⅱ」が、学外の5人と共同執筆した「最高に気持ちいい住まいのリノベーション図鑑」（エクスナレッジ社刊、B5判231ページ）が、都市住宅学会が選ぶ2014年学会賞の著作賞に選ばれ、5月19日、東京・水道橋の住宅金融支援機構すまい・るホールで表彰された。

都市住宅学会は本書が、リノベーションの手法をオープンにし、その対象が使い手・住み手であること。使い手の構想力によって生活空間が生み出され、使いこなされ

法を用いて解決できることも明らかにした。実験で確かめた結果、滑らかな成分と精細成分の同時復元が成功していることが示された。

# 浴衣の着付けなど人気

## 学生支援企画 “地域へ進出”も

学生センターは2010年以来、学生・教職員の授業外交流を目的とした「学習支援プログラム」に取り組んでいる。主に、新入生が充実した大学生活を送れるよう友人づくり▽体力づくり▽スキルアップ・マナーの3テーマを掲げ、今年も各種プログラムを開催。学内を出て、地域へ交流の輪を広げるプログラムもある。

### ◆ 女子イベント 「浴衣着付け」

6月3日、10日と2週にわたり、新習志野キャンパス12号館8階で開かれた。

講師は山野流着装講師・アトリエenfant代



無事に着付けて、ハイ、集合！

から好きな柄を選ぶ。津田沼キャンパスから駆け付けたリピーターや「自分の浴衣を持ってきた」と大きな袋を抱えた学生もいた。

前編は「浴衣選びのポイント」。講師を基本に一連の動作を学んだ後、グループに分かれ、手とり足と指導を受けた。「次は……何だっけ？。慣れない動作に苦戦する参加者たち。

後編は着付けの復習と応用編。「帯の結び方」や「浴衣での立ち居振る舞い」を学んだ。結び方でさまざまな変化をする帯に歓声が上がった。

企画は今年で3年目。年4回催され、後期は10、12月に開く予定。

### ◆ スポーツ スタッキング

6月24日、新習志野キャンパス12号館8階で開催。リピーターを含め43人の学生が参加した。

アメリカ発祥で、複数のカップを積み重ね、崩す一連の速さを競う。講師は今回も、世界チャンピオンの実績を持つ瀬尾剛氏。数年前、キャリア科目の一環で講師として本学に招いて以来の

があった。うれしいと喜びを語った。ミニゲームのミッション成功者＝鷹野圭吾君（建築都市環境学科1年）、藤縄隼人君（電気電子情報工学科2年）、山本航平君（電気電子情報工学科1年）、齊藤拓君にも副賞が贈られた。

参加者たちは「全力で走るのは久しぶり！楽しかった。実行委員長の荒井君は「皆さんが楽しんでくれたことが一番うれしい。企画をやり抜き、達成感を味わえた」と話していた。



## 優勝は機サ・齋藤君

### 「習志野夏の陣」に152人

日（日）、学生ら152人が参加し、新習志野キャンパス全域を利用して開かれた。

今年の設定期は「東軍対西軍」習志野夏の陣。戦国をイメージして東軍と西軍に分かれ、互いに放つて相手を捕らえ、人数を減らす戦い。逃げ場エリアに「頼み事をしてくる町人」「逃げる時に役に立つアイテムを販売する商人」などを配置し、ストーリー性を持たせた。

参加者たちは、12万4千平方メートルの広いキャンパス内をひたすら走り敵「忍」から逃げ回った結果、西軍が見事勝利を手にした。西軍の生き残りはそのまま最終決戦に臨み、抽選の結果、優勝の座に輝いたのは齋藤拓君（機械サイエンス学科1年）。タブレットPCを贈られ「暑い中、頑張ったかい」と話していた。

## 平成26年度千葉工業大学学生共済会収支予算

| 収入の部           |            | 支出の部           |            |
|----------------|------------|----------------|------------|
| 科目             | 金額         | 科目             | 金額         |
| 1. 会費収入        | 23,500,000 | 1. 支払保険料       | 20,000,000 |
| 2. 入会金収入       | 4,500,000  | 2. 給付金         | 5,000,000  |
| 3. 同窓会援助金      | 0          | 3. 貸与金         | 30,000,000 |
| 4. 受取利息        | 150,000    | 4. 委託費         | 7,000,000  |
| 5. 貸付金回収収入     | 26,000,000 | 5. 通信費         | 800,000    |
| 6. 手数料収入       | 1,800,000  | 6. 印刷費         | 700,000    |
| 7. 学費貸与準備金取崩収入 | 0          | 7. 会議費         | 200,000    |
| 8. 前年度繰越金      | 30,416,054 | 8. 事務費         | 500,000    |
|                |            | 9. 学費貸与準備金組入支出 | 0          |
|                |            | 10. 共済基金組入支出   | 0          |
|                |            | 11. 積立金組入支出    | 20,000,000 |
|                |            | 12. 予備費        | 2,166,054  |
| 合計             | 86,366,054 | 合計             | 86,366,054 |

## 平成25年度決算報告書

| 貸借対照表<br>平成26年3月31日<br>千葉工業大学学生共済会 |             |         |             |
|------------------------------------|-------------|---------|-------------|
| 資産の部                               |             | 正味財産の部  |             |
| 科目                                 | 金額          | 科目      | 金額          |
| (流動資産)                             |             | (流動資産)  |             |
| 普通預金                               | 30,416,054  | 共済基金    | 205,000,000 |
| 定期預金                               | 488,000,000 | 積立金     | 118,000,000 |
|                                    |             | 貸付充当金   | 176,022,560 |
| 計                                  | 518,416,054 | 計       | 499,022,560 |
| (固定資産)                             |             |         |             |
| 貸付金                                | 176,022,560 | 学費貸与準備金 | 165,000,000 |
|                                    |             | 次年度繰越金  | 30,416,054  |
| 計                                  | 176,022,560 | 計       | 195,416,054 |
| 合計                                 | 694,438,614 | 合計      | 694,438,614 |

## 平成25年度収支決算書

自 平成25年4月1日：至 平成26年3月31日

| I 収入の部         |            |            |            | II 支出の部      |            |            |             |
|----------------|------------|------------|------------|--------------|------------|------------|-------------|
| 科目             | 予算額(①)     | 決算額(②)     | 差引増減額(②-①) | 科目           | 予算額(①)     | 決算額(②)     | 差引増減額(②-①)  |
| 1. 会費収入        | 24,000,000 | 23,687,500 | △312,500   | 1. 支払保険料     | 35,000,000 | 31,910,440 | △3,089,560  |
| 2. 入会金収入       | 4,500,000  | 4,696,000  | 196,000    | 2. 給付金       | 6,000,000  | 1,657,000  | △4,343,000  |
| 3. 同窓会援助金      | 500,000    | 500,000    | 0          | 3. 貸与金       | 30,000,000 | 10,267,500 | △19,732,500 |
| 4. 受取利息        | 150,000    | 170,621    | 20,621     | 4. 委託費       | 6,900,000  | 6,852,300  | △47,700     |
| 5. 貸付金回収収入     | 25,000,000 | 28,647,427 | 3,647,427  | 5. 通信費       | 100,000    | 1,187,632  | 1,087,632   |
| 6. 手数料収入       | 1,800,000  | 1,796,302  | △3,698     | 6. 印刷費       | 1,500,000  | 1,160,250  | △339,750    |
| 7. 学費貸与準備金取崩収入 | 0          | 9,000,000  | 9,000,000  | 7. 会議費       | 200,000    | 144,400    | △55,600     |
| 8. 積立金取崩収入     | 20,000,000 | 20,000,000 | 0          | 8. 事務費       | 400,000    | 450,063    | 50,063      |
| 9. 前年度繰越金      | 5,547,789  | 5,547,789  | 0          | 9. 学費貸与金組入支出 | 0          | 10,000,000 | 10,000,000  |
|                |            |            |            | 10. 共済基金組入支出 | 0          | 0          | 0           |
|                |            |            |            | 11. 積立金組入支出  | 0          | 0          | 0           |
|                |            |            |            | 12. 予備費      | 1,397,789  | 0          | △1,397,789  |
| 当期収入計(A)       | 81,497,789 | 94,045,639 | 12,547,850 | 当期支出計(B)     | 81,497,789 | 63,629,585 | △17,868,204 |
|                |            |            |            | 当期剰余金(A)-(B) | 0          | 30,416,054 | 30,416,054  |

## 学生共済会予算、決算を承認

### 予 算

5月26日に開かれた理事会で、平成26年度学生共済会予算案は異議なく承認された。予算の概要は次のとおり。

#### △収入の部▽

● 貸付金回収収入

近年滞納者増加により回収率が低下していたが、督促を強化したこと、若干ではあるが景気が持ち直したことから、昨年度より100万円増額が見込め、2600万円を計上した。

● 支払保険料

平成25年度から全学生（会員）に対して新たに加入した損害賠償保険料を含め、通学中の怪我等に対応する学生教育研究災害傷害保険料として2000万円を計上した。

● 委託費

今年度は昨年同様、ここから先の元氣サポート、暮らしの法律相談の継続に係る費用と消費税法改正に伴い700万円を計上した。

● 印刷費

新規事業のリーフレットや更なる共済会事業の周知に向け、70万円を計上した。

### 決 算

平成25年度の学生共済会決算は5月26日に開かれた理事会で、異議なく承認された。決算の概要は次のとおり。

収入の部では、同窓会からの援助金が50万円、また貸付金回収の2800万円等を併せ合計約9040万円となった。これからも、返済方法や督促方法を見直し、回収率アップに努めたい。

支出の部では、大学の給付奨学金や学費提携ローンの認知度が高まり、共済会貸与制度と並行して申請する学生が増加している。また、東日本大震災の特別支援制度もあり、貸与者は減少している。

千葉工業大学学生共済会も26年目を迎え、今後より良い学生生活が送れるようサポートしつつ、平成25年度も順調に運営されましたことをご報告致します。

平成26年度PPA地区懇談会

開催時刻：13時（本学は12時30分）

| 地 区  | 開催日      | 会 場 名             | 電 話          |
|------|----------|-------------------|--------------|
| 札幌   | 8月30日(土) | 札幌アспенホテル        | 011-700-2111 |
| 旭川   | 8月31日(日) | 旭川グランドホテル         | 0166-24-2111 |
| 釧路   | 8月31日(日) | 釧路キャッスルホテル        | 0154-43-2111 |
| 函館   | 8月30日(土) | 函館国際ホテル           | 0138-23-6161 |
| 青森   | 8月31日(日) | 青森グランドホテル         | 017-723-1011 |
| 盛岡   | 8月30日(土) | ホテル東日本盛岡          | 019-625-2131 |
| 秋田   | 8月31日(日) | ホテルパールシティ秋田竿燈大通り  | 018-862-0501 |
| 山形   | 8月30日(土) | 山形グランドホテル         | 023-641-2611 |
| 酒田   | 8月31日(日) | ホテルリッチ&ガーデン酒田     | 0234-26-1111 |
| 新潟   | 8月30日(土) | ホテルオークラ新潟         | 025-224-6111 |
| 富山   | 8月30日(土) | ホテルグランテラス富山       | 076-431-2211 |
| 長岡   | 8月31日(日) | ホテルニューオータニ長岡      | 0258-37-1111 |
| 福島   | 8月30日(土) | ホテルサンルートプラザ福島     | 024-525-2211 |
| 会津   | 8月31日(日) | 会津若松ワシントンホテル      | 0242-22-6111 |
| いわき  | 8月31日(日) | グランパークホテルパネックスいわき | 0246-35-5010 |
| 水戸   | 8月30日(土) | 水戸京成ホテル           | 029-226-3111 |
| 土浦   | 8月31日(日) | ホテルグリーンコア土浦       | 029-822-4111 |
| 潮来   | 8月31日(日) | 潮来富士屋ホテル 別館開花亭    | 0478-56-2123 |
| 佐久   | 8月30日(土) | 佐久平プラザ21          | 0267-65-8811 |
| 長野   | 8月31日(日) | ホテルJALシティ長野       | 026-225-1131 |
| 広島   | 8月30日(土) | ホテルJALシティ広島       | 082-223-2580 |
| 岡山   | 8月31日(日) | ホテルグランヴィア岡山       | 086-234-7000 |
| 松山   | 8月30日(土) | ホテルサンルート松山        | 089-933-2811 |
| 高知   | 8月31日(日) | 高知サンライズホテル        | 088-822-1281 |
| 熊本   | 8月30日(土) | 熊本全日空ホテルニュースカイ    | 096-354-2111 |
| 福岡   | 8月31日(日) | 博多エクセルホテル東急       | 092-262-0109 |
| 大阪   | 8月30日(土) | ホテルグランヴィア大阪       | 06-6344-1235 |
| 那覇   | 8月31日(日) | ホテルJALシティ那覇       | 098-866-2580 |
| 宮崎   | 8月30日(土) | ホテルJALシティ宮崎       | 0985-25-2580 |
| 鹿児島  | 8月31日(日) | 城山観光ホテル           | 099-224-2211 |
| 小松   | 9月6日(土)  | 小山グランドホテル         | 0285-24-3333 |
| 仙台   | 9月7日(日)  | 仙台国際ホテル           | 022-268-1110 |
| 宇都宮  | 9月6日(土)  | 宇都宮グランドホテル        | 028-635-2111 |
| 高崎   | 9月7日(日)  | ホテルメトロポリタン高崎      | 027-326-7982 |
| さいたま | 9月7日(日)  | ホテルラフレさいたま        | 048-601-1111 |
| 松本   | 9月6日(土)  | 松本東急イン            | 0263-36-0109 |
| 甲府   | 9月7日(日)  | ホテル談露館            | 055-237-1331 |
| 浜松   | 9月6日(土)  | グランドホテル浜松         | 053-452-2112 |
| 名古屋  | 9月7日(日)  | ホテルサンルートプラザ名古屋    | 052-571-2221 |
| 静岡   | 9月6日(土)  | 静岡第一ホテル           | 054-281-2131 |
| 沼津   | 9月7日(日)  | ホテル沼津キャッスル        | 055-923-1255 |
| 本学   | 9月7日(日)  | 津田沼校舎2号館3階大教室     | 047-478-0209 |



平成26年度PPA総会  
が6月28日、習志野文化  
ホールで開催。写真、  
案を承認。新会長に庄司

さらに確かな礎を  
26年度PPA総会 新会長に庄司氏



⑤学科ブースで説明を聞く父母たち  
⑥個別相談ブースで面談



⑤学科ブースで説明を聞く父母たち  
⑥個別相談ブースで面談

米氏（機械サイエンス学  
科3年の保護者）を選任  
した。学生の父母など委  
任状を含めて4003人の  
の会員が出席した。  
総会は冒頭、三宅浩史  
会長が「PPAの大きな  
活動の一つである地区懇  
談会は、多くの保護者の  
ご満足を頂いているが、  
「私が学長に就任して6  
月29日である2年。この  
間、理事長との信頼関係  
に基づいた意思決定と大  
学運営、教職員の相互協  
力のもとに行う諸施策、  
教育・研究の活性化、大  
学の国際化などに力を入  
れてきた。今後も質の高  
い留学プログラムやキャ

その他の幅広い事業につ  
いても理解と助言・支援  
を賜り、皆さまと一緒に  
PPAを盛り上げていき  
たい」とあいさつ。  
次いで小宮仁学長が  
「私が学長に就任して6  
月29日である2年。この  
間、理事長との信頼関係  
に基づいた意思決定と大  
学運営、教職員の相互協  
力のもとに行う諸施策、  
教育・研究の活性化、大  
学の国際化などに力を入  
れてきた。今後も質の高  
い留学プログラムやキャ

クラブの活動状況

| 体育会   | 期 間       | 大会・発表会名                   |
|-------|-----------|---------------------------|
| 空手道   | 6/8       | 平成26年度 春季関東学生会定期リード       |
| //    | 6/22      | 平成26年度（第62回）東都六工大空手道選手権大会 |
| //    | 6/28～6/29 | 第57回全国空手道選手権大会            |
| 弓 道   | 6/15      | 全関東学生弓道選手権大会個人予選          |
| 剣 道   | 6/7       | 千葉県剣道学生大会                 |
| //    | 6/15      | 関東理工科学生剣道大会               |
| 硬式庭球  | 6/1       | 対抗戦                       |
| 硬式野球  | 4/5～6/2   | 千葉県大学野球春季リーグ戦（2部）         |
| 自動車   | 6/22      | 全関東学生ダートトライアル選手権大会        |
| 卓 球   | 6/15      | 四大戦                       |
| 二 輪   | 6/1       | キャンオフ第1戦                  |
| 陸上競技部 | 6/8       | 千葉県スポーツ祭典陸上競技大会           |

上記クラブのほか、多くのクラブが課外活動に励んでいます。定期的にいろいろなクラブの活動状況をお知らせしています。学生たちのがんばりにご期待ください。

した。  
承認された26年度事業  
計画では、援助活動担当  
事業の枠組みを、①学生  
課外活動支援②学生奨学  
支援③学生進路支援の3  
本柱に変更し、学生奨学  
支援の中に「学生の研究  
活動への援助」を新設す  
ることになり、予算が付  
けられた。  
総会で承認された26年  
度の副会長、監事は次の  
とおり。  
▽副会長 橋本和明・  
生命環境科学科教授（理  
事・評議員）  
▽監事 田部井洋子  
（生命環境科学科3年の  
保護者）、村上利幸（経  
営情報科学科准教授）  
未定の副会長1人は理  
事に一任。  
＊  
総会に先立って行われ  
た就職講演会では、エン  
パシーコーポレーショ  
ンの手嶋謙二郎代表取締  
役が「今の大学生はコミ  
ュニケーションの実践力  
が足りない。あしろ・  
こうしろの『ティーチン  
グ』ではなく、あなたな  
らどうするか」と投げか  
ける『コーチング』をモ  
ットーに、彼らと接して  
ほしい」と訴えた。

編集だより



留学生と、本学日本人  
学生との交流を楽しむ場  
として「Global Care」  
がプレオープンした。  
7月11日に記念すべき  
第1回を開催。台風の影  
響にも負けず、用意した  
スペースがほぼ満席とな  
る学生達が参加した。  
当日は、カフェ店長な

四季雑感



現代を生きる上で、感  
性を養うことが大切だと  
つくづく思う。世界の動  
き、人々の嗜好、科学技  
術が猛烈な勢いで変容す  
る中で、固定観念にとら  
われた頭ではもはや生き  
延びられない。常に未来  
に目を向けた柔軟な発想  
が若い世代には求められ  
る。

PPA



PPA総会も何とか無  
事に終わり、会長として  
の重責を終えることがで  
き、ほっとしています。  
本学を卒業して29年経っ  
て、このような形で母校  
に恩返しできたことを  
誇りに思います。  
学生当時、現在の津田  
沼校舎が、千葉ベイエリ  
アのランドマーク的な存

るスタッフも登場し、世  
界のお菓子やお茶などを  
サービス。学生達は英語  
でのコミュニケーション  
を心行くまで楽しんだ。  
ここで私が主張したい  
のは、実はグローバルカ  
フェの盛況ぶりではな  
く、その日に参加してい  
た一人の学生との出会い  
に他ならない。  
見たことあるぞ！入学  
前に私が学内を案内した  
学生ではないか？水球部  
がないことを残念そうに

それでは感性はどう獲  
得強化できるのか。個人  
的には「浴びるように芸  
術に接する」ことを勧め  
る。芸術は、美術や音楽  
など何でも良い。ただ  
し、新しいことが条件で  
ある。  
現代(前衛)芸術は、理  
解不能、変人の作品、と  
感じるかもしれない。実  
際、現代芸術の理解は難  
しい。しかし、浴びるよ  
うに触れていると、とき  
どき雷に打たれるような  
作品に出会う。それで自

在になることを誰が想像  
したでしょう。古い実  
験棟の1、2号館、卒論  
完成に向け何日も徹夜を  
した3号館、唯一エレベ  
ーターがあり、地下が学  
食でカレライスが絶品  
だった4号館、仲間と悔  
しさ、喜びを共にしたテ  
ニスコート、いつも汗臭  
く、ホコリっぽかった部  
室棟など、自分の残像に  
ある校舎は、形を変え大  
きく進化しました。  
学生の皆さん、在学中  
に何でも構いません、一  
己の感性力が上昇する。  
重要なのは、年齢を重  
ねるほど新しい芸術は受  
け入れ難くなる。感受性  
は思春期の頃が最も強  
く、二十代ではやや手遅  
れらしいが、それでも四  
十代に比べれば遙かに受  
容器の幅は広い。若いう  
ちに浴びるように芸術に  
接しておく、将来、感  
性豊かでセンスのある仕  
事を成し遂げられると思  
う。  
未来ロボティクス学科  
大川 茂樹